

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 張 曦

本論文は、現代中国の少数民族地域における観光開発の実態について、国家および地方の行政と現地住民の対応に留意して、観光開発がはらむ多様な現実と地域住民による主体的・内発的な発展の可能性について検証するものであり、筆者自身による現地での観察・記述と歴史・行政資料とを併用した記述と分析である。

本論文は、序章と九つの章および結論からなっている。

序章では本論文の課題として、まずはじめに現代中国の少数民族地域における観光開発を取り上げる理由と課題の輪郭と脈絡が示されている。社会主義の原則のもと、改革開放政策によって観光は国民的な関心事として急速な発展をとげており、それは国家の周辺に位置する少数民族地域にまで大きな影響を及ぼし、民族的アイデンティティ - においても観光化の過程を無視できないとする。本論が特に留意するのは、観光開発における行政と住民の関係に加えて、改革開放過程における観光開発の経済的側面、観光開発にともなう「観光文化の生成」をめぐる観光人類学の論点、開発における参加と主体性をめぐる開発人類学の論点、持続可能な観光開発をめぐる論点である。次いで、本論文が事例として取り上げる羌族およびアバ羌族蔵族自治州について先行研究が紹介された後、筆者自身の羌族出身としての内部者の視点が強調されている。

第一章では、中国における観光概念と観光の歴史を踏まえた上で、新中国における近代観光を概観している。それは社会主義体制のもとでの労働と学習との関連で定義された観光であったのに対して、改革開放政策以降は規制の緩和にともないそれ自体を目的とする観光が急速に復活し、それにとまなう行政による新たな管理・統制についても記述されている。1986年以降の経済成長に伴う観光の発展においても、行政の側の経済的効果を優先した観光開発の経過と、その一方で、伝統文化に対する再認識、とりわけ少数民族をめぐる観光ブームに至った経過があとづけられる。

第二章では、羌族地区において主として行政の主導で推進された観光開発の過程を取り上げ、自然環境を資源として経済的な効果を優先させた観光開発について、近年の西部大開発政策にいたるまで観光開発が貧困削減の中心的な課題となってきたことを、主として行政資料によって検証している。

第三章では、羌族地域における、観光化の進展に応じて3つの段階に区分して、風景区の認定、事業所設置、交通の整備の3点について観光条件の開発の現状について記述し、自然環境と民族文化の両面においてアバ自治州が都市住民の多様な観光ニーズに応えられ

る条件を具えるに到ったことを明らかにしている。

第四章は羌族地区における環境状況と環境意識について、森林伐採と移動式農業および工場汚染などによる環境問題に対して、羌族の山の生活と一体化した伝統的な自然認識と環境認識について、彼らの伝承と信仰をもとに分析しており、民族独自の環境保全の新たな取り組みの有効性を指摘している。

第五章は観光開発の状況について、地域社会内部の住民の認識・対応と地域外部からの介入や影響の両面から記述している。内部の状況として、土司制度から集団農場を経て近年の村民委員会にいたる地域末端行政組織の実態について、自治的・内発的な側面を検証している。その上で、外部の開発介入に対する村人の主体的な対応を指摘している。

第六章では、羌族地区における観光開発にともなう文化的・社会経済的影響について、主として持続性の条件となる社会的適合性 (soundness) に留意して検討している。その結果、民宿を主とする村規模の観光開発の経済効果について、概ね適格的であるという評価を下している。

第七章は、GAD (Gender and Development) の視点から羌族地区の観光開発における女性に注目し、羌族の伝統的な女性の地位・役割、観光開発にともなう女性の労働とりわけ民宿経営における女性の仕事、観光開発にともなう女性の自己認識と変貌、観光開発にともなう女性の消費行動などについて、具体的な事例の記述と分析をおこなっている。その結果、町における観光開発とは異なり、村の民宿経営におけるような小規模な観光開発では、観光による女性のサ - ヴィスの専門化や女性の地位の周縁化は見られず、伝統的な女性の地位・役割の延長上で行われていることが指摘されている。

第八章では、これまで観光人類学において関心を呼んできた文化の変容と生成の問題を論じている。文化が置かれた文脈のもとで絶えず生成するという観点から、いわゆる伝統文化とは異なる観光文化が生成されるという状況について、筆者はホストとゲストの不均衡な関係に注目して、いわゆる観光文化は、どこまでもゲストの主導性によって断片化されたものであり、その脈絡に即してホスト側によって文化が演じられるとする。また、両者の不均衡な関係に対応して、文化を語り提示する文脈自体が分断されているとし、したがってゲストが期待する真正さとは別に、観光以外の文脈における文化の真正性を提起している。この点について筆者は、民宿における客に対する物質文化の説明、祭りやシャ - マン儀礼の観光客向けの演出などの具体的な事例を慎重に観察記述しており、筆者自らの羌族としての観察眼が発揮されている。

第九章は、観光開発と観光資源との関連について、持続可能な観光を想定した適正規模の観光の可能性を論じている。観光開発によるマスツ - リズムにさらされる羌族地区における自然環境と民族文化の持続的な側面について、具体的な事例に拠って記述している。また持続的観光のための教育の重要性を指摘し、特に自然環境については信仰と伝承によって生活に組み込まれた羌族独自の伝統を踏まえた環境教育の有効性を指摘している。

結論では、以上の各章の論点を的確に総括している。

本論文で筆者は、行政主導による観光開発では、社会主義社会建設のための実用面から経済効果が優先され、自然環境資源に注目したきわめて介入的かつ規模を重視する方針が採られてきたことを明らかにし、これに対して、少数民族の伝統文化に対する認識と関心は、むしろ行政の及ばない周辺部において住民と訪問客の相互交流の過程で展開してきたものであると指摘している。これは、現地住民の内発的かつ持続的な対応の重要性を指摘するものでもあり、これまでの外部研究者の視点では軽視されてきた点である。さらに、行政による大規模開発とは異なり、村規模の観光において女性の参加による主体的・自発的な活動が、家族経営による観光の持続的な発展において有効であるという指摘も、現地での参与観察の貴重な成果である。これに関連して、社会主義国家における国家行政の影響力を過度に強調してはならないという筆者の主張は、現地住民の生活現実を重視した貴重な警鐘ともいえる。

また、観光の現場に生成されるいわゆる観光文化については、ホストとゲストの相互作用の中で、伝統文化の断片によって構成され、観光の場でしか存続しないと、変貌した伝統文化もゲスト側観光客と共有するためではなく、主にホスト社会の中で変貌しながらも存続すると指摘しており、さらに、住民が脈絡の違いを弁えながら、自文化の語り方を自らコントロールできるようにしたとして、住民の新たな主体性を指摘しているのも、これまでの外部研究者の視点を超える現地人研究者の貴重な問題提起である。

その点で、社会主義国家における国家の行政の力と支配を強調しすぎてはならないとして、少数民族社会内部の実態に目を向けて、村人と観光客の行動の観察を通して、両者が文化を認識し語る文脈の違いを読み取っている点に本論の特色がある。それは、自らが羌族出身の立場から、たえず外部との関係に身を置きながら自覚を迫られてきた筆者ならではの視点が生かされている点として高く評価される。

また、周辺山間部の村の小規模な観光における住民の主体的な参加による内発的な様相を指摘して、持続的な観光のためにはホスト側にもゲストの側にも適正な規模の観光と、経済のみならず文化的にも自律と自覚の重要性を提起しており、その一環として民族の伝統的な環境認識にもとづく教育の重要性を指摘しているのは、単なる観察・分析に留まらず現地社会の現実を踏まえた実践的な姿勢としても高く評価される。

人類学の対象としてはきわめて大規模なばかりでなく、中央から地方に至る複雑な行政まで視野に入れなければならない社会主義中国の研究において、とりわけ少数民族の研究においては特に漢族との関係が大きな規定要因となってきた。本論文では、こうした大規模かつきわめて複雑な状況を正面から視野に入れた研究という点で大変意欲的なものであり、加えて観光という相互関係の場に焦点を置くことによって、少数民族の置かれた生活実態を記述・分析した点でもこれまで先例の少ない研究成果であるといえる。そうした展望と研究実践は、自らが少数民族の出身として、山間部の生活から平野の町の生活、都市での教育、職場、そして留学、さらに文化人類学との出会いを通して、つまり極めて複雑な状況を自ら歩み経験しながらこれを対象化するに到ったものであり、外部社会との関連

の中で少数民族の視点を生かそうとした点で、筆者ならではのオリジナルな研究成果といえよう。

なお、審査員の中からは本論文の欠点として、扱う内容があまりに多岐にわたるため、個々の論点の関連が必ずしも明確ではない点、筆者の置かれた状況と視点の特質について考察が十分でない点、また文章上の不備や文献引用における不備などが指摘された。しかしこうした欠点は上記のような本論文の評価を覆すような瑕疵とはみなされない。

したがって、本審査委員会は本論文が博士（学術）の学位に相応しいものと認定する。

: